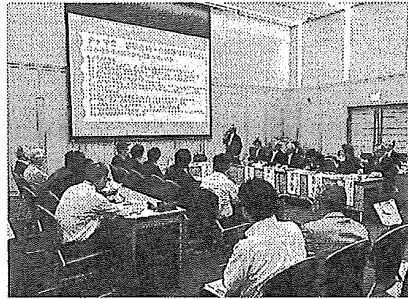


インフラメンテ九州フォーラム 福岡市でピッチイベント

が検討
熊本県
実装化

産学官民で構成するインフラメンテナンス国民会議九州フォーラム（リーダー・日野伸一大分工業高等専門学校校長）は9日、福岡市で第3回ピッチイベント「ニーズとシーズ、マッチングの萌芽」を開いた。約180人が参加。雪水対策となる舗装技術、石橋の補

修技術などをテーマとしたマッチング活動で公募に応じた8社がシーズ技術を紹介し、写真、熊本県は舗装技術の実装化を前向きに検討する姿勢を示した。第1部では六郷恵哲岐阜大学工学部特任教授が「シーズとニーズをつなぐ取り組み」SIPインフラ地域



実装支援活動より」をテーマに基調講演した。六郷氏は「強いニーズがなければ

新しい技術は生まれない。ニーズとシーズをつなぐ取り組みが重要だ」などと述べ、同フォーラムのイベントなどがニーズとシーズの出会いの場として有効だと示唆した。

ニーズ紹介で熊本県の担当者は「温度制御が可能となる橋面の舗装技術」について建設業界の高齢化と人手不足により道路の冬季の雪水対策が課題となっていると説明。熊本県八代市の担当者は「石橋の点検・診

断および補修技術」について石橋の点検・診断に特化したマニュアルや解体復元以外の補修工法に関する情報提供を求めた。

大塚久哲九州大学名誉教授が代表を務める大塚社会基盤総合研究所は「インフラ施設管理に関する課題の具体化、共有化」について現役を退いた技術者がボランティア活動で地方自治体のインフラメンテナンスに関する支援を行う「（仮称）シニア・テックグループ」

の設立を提案した。

第2部のマッチング活動では橋面舗装技術で▽ガイアト▽オサタ技研▽アマケンテックの3社、石橋の補修技術で▽建設プロジェクトセンター▽有明測量開発社▽中央コンサルタンツ▽尾上建設▽葵文化の5社がシーズ技術を紹介しグループ討議を実施。熊本県は3社の橋面舗装技術についていずれも実装化を検討する考えを示した。